

# とんからりん

サカタニ友の会ニュース

## ファミリーマート サカタニ京阪七条店 3/27 リニューアルオープン 「来店有難くはなりました。」

店舗改装工事で、大変ご迷惑を

1986年7月3日・現在地に有った2軒の店舗家屋を「ビル化」して当時まだ「深夜スパー」と呼ばれていた「ファミリーマート」(以下ファミマと表記)を開店しました。

それまでは「酒販業」と「讃岐うどん店・東山めん坊」を営業していました。当時の酒業界は「免許制度」があり競争のない天国のような状況でした。だが、いずれ免許制度は無くなるかと思っていまして。そのころご近所のKさんが渡米され土産話に、スパーを押しのけるように小さな店のチェーン店「セブンイレブン」が増え続けていると聞き関心を持っていました。

その間に、父が没し現在地を相続、「ビル」を全額借入して建設を考えましたが、「酒販業」で多額の返済は無理と判断しご縁が有って「ファミマ」を選びました。

そこを率いられる「堤清二(井筒)氏」と「無印良品」に注目していたからです。

私は幾つか事業を起こしましたが「宣伝」には特に力を入れてきました。「ファミマ」の場合は「ビル建築」の段階から取り掛かりました。マダ日本少ないコンビニで兆戦です。開店準備段階で初売上目標を三百万円・ご来店客数三千人と設定しました。

店客数三千人と設定しましたが「ファミマ本部の人は「そんな無茶は！」と言いましたがお陰さまで達成出来ました。

今回は、ビル全体の補修工事とファミマ店舗改装「リニューアル開店と創業百一年記念」で賞金付特売を実施しました。最初の開店時には及びませんでした。が、沢山の皆さまがご来店ください、お祝いの言葉も頂戴いたしました。有難く厚くお礼申し上げます。

私共は2002年から、このミニコミ「とんからりん」を自前で発行を続けてきました。欄上に書いた「スローガン」

店は、人と人のふれ合いの場でありたい！

発行者  
株式会社サカタニ  
集西楽・サカタニ  
ファミリーマート  
サカタニ京阪七条店  
〒605-0993 京・東山区七条こころ坂下  
・075-561-7974  
URL [www.sosake.jp/](http://www.sosake.jp/)  
Eメール [info@sosake.jp](mailto:info@sosake.jp)  
「とんからりん」は  
毎月発行の  
会員新聞です  
編集・酒谷義郎  
[yosi.rou@sosake.jp](mailto:yosi.rou@sosake.jp)

### 地域とお客様

様のお役に立つ店をめざして！

店はお客様のため有る！を忘れない姿勢で歩み続けてまいります。宜しくご支援を賜わります様お願いします。

当社は「サカタニ友の会」をつくっています。案内を同封しました。是非共ご入会をお願い申し上げます。

### 米屋と酒屋

お年寄りの方々に良く「酒屋さんと米屋さんはお金持ち」といわれます。それは昭和40年までのことです。今は「酒・米屋」さんは激減しています。

最近「本屋」も「アマゾン・楽天」が増え廃業される店が目立ちます。昔は酒や米は買い手配りし、途中でおしゃべりして時間が掛かりますが、元気な間は続けます。

お電話…映画愛好家 小野様から  
「松竹の美男俳優 佐田啓二と木下恵介監督」の題でお話した  
個人的な都合もあつた佐田木下両氏のことを小野さんの映画に対する熱意を感じお話ぶりに演者の参加者は嬉しかったです。

「楽々ホール」改装後の集りは演者夫々で決まってきました。黙って、お宅の台所に置いて帰れる程親しまれた商売でした。戦時中から免許、許可制度が出来、物資不足で「配給制度」商品を取にきて貰う形になりました。お得意先とお付き合いが「希薄」になったのです。

なるほどネットは「物や情報」得るだけでは極めて便利で私も良く利用します。が、それが限度だろうと思うのです。いや、そうゆう時代だから「アナログ」が大切と思うのです。「とんからりん」友の会」そして祖父の代にいた「だいた酒屋看板(写真)」を「ファミマ店内」に掲げました。酒屋時代の気持ちを忘れなためです。ご近所への「とんからりん」は「私」が手配りします。途中でおしゃべりして時間が掛かりますが、元気な間は続けます。



ファミマ・サカタニ京阪七条の店内看板



第11回 朝粥食べておしゃべり会報告  
四月は定例第三日曜日。晴。10時30分  
改装完了した「楽々ホール」で開催しました。

お話…映画愛好家 小野様から  
「松竹の美男俳優 佐田啓二と木下恵介監督」の題でお話した  
個人的な都合もあつた佐田木下両氏のことを小野さんの映画に対する熱意を感じお話ぶりに演者の参加者は嬉しかったです。

「楽々ホール」改装後の集りは演者夫々で決まってきました。黙って、お宅の台所に置いて帰れる程親しまれた商売でした。戦時中から免許、許可制度が出来、物資不足で「配給制度」商品を取にきて貰う形になりました。お得意先とお付き合いが「希薄」になったのです。

### どんつき

私の店は 七条通り面

してします。三十三間堂、国立京都博物館、京都女子学園も近く京阪七条駅直ぐ傍。

東のどんつきに「智積院」その北側は妙法院。今その更に北側でフォーシーズンズホテル京都(186室)が建設中。

建設場所は、専売病院、東山武田病院の跡で平重盛別邸跡といわれる名園「積粹園」を含んでいます。

元有った専売病院は、昭27年に妙法院の土地を買って建てた。修道小学校隣地であったため反対運動が起った。

当時は結核が流行時。専売局の結核患者が入れば困るが反対理由だった。学区ぐるみの運動でお手伝いをした。

最終的に「結核病棟」は造らない「積粹園」は保存維持するとの協定が結ばれ決着した。後、武田病院に代わった。

一昨年「ホテル」の話が出て学区で集会有った。偶々その時期にその学区に転居して参加した。役員の方に協定はと質問したら今度のホテルも継続を約したとのことだった。40年前の成果だ。

東日本大震災、石碑の効果を。馬町空襲の「碑」が無いことを思い出し提案した。賛同を得て建立ができた。

物事は「繋がり」があれば上手く進行するものと思つた。

サカタニ友の会」で繋がつて！とお願ひしたい

# ヨシイちゃんのとひとりごと



今日(四月二十九日)

## 昭和の日

国民学校時代は「天皇節」そして敗戦後「天皇誕生日」「みどりの日」そして「昭和の日」になった。

子供の頃「哲学通論」を手にし、感激から、今して読んだことをつづった。また、戦後の日本に自分がいない無念さを吐露。最後に別の挨拶(あいさつ)をし、辞世の歌二首を残した。

木村の遺書は、旧制高知高校時代の恩師・塩尻公明(一九〇一―一九六九年)が四八年に「新潮」誌に発表した「或(あ)る遺書について」で抜粋が紹介され、初めて公になつた。「凡(すべ)てこの(哲)学通論」の書きこみの中から引いてきた」とされ、「わだつみ」でも同様に記されたが、いずれも二つの遺書を編集したものだった。

国民学校時代も祭日だった。が講堂で「式」があり「御真影(天皇陛下のお写真)」に向つて最敬礼を礼して 今日の良い日は大君の生まれ賜いし良き日なり の歌った。間違つて歌い先生に叩かれた奴もあり、それが怖くて今も歌える。

「わだつみ」の後半四分の一は父宛ての遺書の内容だった。二つの遺書を精査したところ、「哲学通論」の遺書で陸軍を批判した箇所などが削除されたり、いずれの遺書にもない言葉が加筆されたりしていたことも分かった。「辞世」の歌二首のうち最後の一首も違うものになっていた。

親宛てで、末尾に「処刑半時間前擱筆(かくひつ)す(筆を置く)」とあった。

この遺書で木村は、先立つ不孝をわび、故郷や旧制高校時代を過ごした高知の思い出を語るとともに、死刑を宣告されてから哲学者で京都帝国大(現京都大)教授だった田辺元の「哲学通論」を手にし、感激



この遺書

書で木村は、先立つ不孝をわび、故郷や旧制高校時代を過ごした高知の思い出を語るとともに、死刑を宣告されてから哲学者で京都帝国大(現京都大)教授だった田辺元の「哲学通論」を手にし、感激

大事があった。いつからだったろうか。選挙というものを意識したのは、小学校中学年か。学級委員の選挙などで、黒板に名前が書かれ、正の字が連ねられるとちよつとドキドキしたものだった。中学生ともなると町の選挙に興味しんしん。生徒会役員に立候補した時の演説も大人のマネだったりした。

## 花は葉に

石動敬子

春は、桜咲く時期にあわせたように、選挙という大事があった。

選挙というものを意識したのは、小学校中学年か。学級委員の選挙などで、黒板に名前が書かれ、正の字が連ねられるとちよつとドキドキしたものだった。中学生ともなると町の選挙に興味しんしん。生徒会役員に立候補した時の演説も大人のマネだったりした。



大学の寮生活や合唱団の委員会なども、新体制への切り替えは、選挙。「総批判会」などの修羅場があり、激痛を伴う、

この格闘技のような議論の日々だった。人呼んで「攻撃的民主主義」。好き嫌いを越えて、どんな思想、信条で生き、誰に投票するかは、大人になるうえで大事な関門だった。

思えば仙台の女子高時代、週一回のHR(ホームルーム)が生徒たちに任された。先生たちは良い助言者たりえるか試され、説得力がなければ容赦ない批判にさらされもした。その運営委員に立候補し、「新しい女性の生き方」「女性と仕事」などの討論や読書会を盛んに行った。

進路を決めようという時が来て、日本地図を眺め渡し、京都に行こうと思つた。学生の街、学問の街。優れた文化人が仰山いて、そこから「世界が見わたせ、その最先端に会えそうな街。変わらぬ」大事が脈々と受け継がれている街。百人一首のように身を焦がす出逢い、恋の予感がする街。その実は大学紛争一色、

バリケードストライキで辛くも卒論を仕上げ、キャンパスライフから早々に引き上げることになった。がその後、この街で働き、結婚した。思えば「憲法を暮らしに生かそう」という大きな、明るい、革新的な流れの安心があったからだろう。

その、垂れ幕を見なくなつて久しい。今は、単純多数派の我田引水、したい放題、のとも不安な街。いいなと思う制度がどんどん消えていく街。そんなとき、「ノーベル平和賞に、憲法9条を」の声が上がり、当局に受理されたと聞いた。よかつた。世界中の人に紹介され、その高い不戦の精神を聞いて貰える！失望の春になりかけていたところに、また光がさしてきた。今諦めては元も子もない。待ちきれない新緑が、日に日にこの街を包囲しつつある。

写真は、高野川沿いの風景、ご投稿様のフェイスブックから転載。

せたとして、B級戦犯に問われた。取り調べは軍の参謀らの命令に従つたもので、木村は無実を訴えたが、シンガポールの戦犯裁判で死刑とされ、四六年五月、執行された。二十八歳だった。

木村は判決後、シンガポール・チャング刑務所の獄中で同じく戦犯に問われた元上官

から「哲学通論」を入手。三たび熟読するとともに、余白に遺書を書きつづつた。執行間際には今回見つかった遺書を書き、両方が戦友の手で遺族のもとに届けられたとみられる。注：【】内の文は4月29日付け東京新聞記事を使つた。

# 京都&東山 ぶらりピカリ

49

## 宝樹寺



この四月、元一橋小学校跡に、京都市立泉小中学校(写真)が開校された。東山区にはかつて十一の小学校と三つの中学校があったが、先年開校の開靖小中学校の(小中)二校に集約された。建物・設備は行き届き立派になつたが、従来の小学校と住民との関わりが「薄く」なるような気がしてならない。



側に清涼山寶樹寺(浄土宗西山禅林派・通常拝観不可)がある。この地に一ノ橋と呼ばれた橋が架かっていたとから「橋詰堂」とも呼ばれていたと伝えられ、永三年(1706)僧聖空により中興、寺名を寶樹寺と改め現在に至っている。そのご本尊は阿彌陀如来立像と薬師如来坐像。俗に「子そだて常盤薬師」と呼ばれる石碑もある。常盤とは、平安時代の末期に生きた絶世の美女。近衛天皇の



衛美天女

中宮・藤原呈子の雑仕女(女性の召使)から、源義朝の愛妾になり、7男今若・8男乙若・9男牛若を生んだ常盤御前のことである。平治の乱で義朝が敗死した為に三人の子供を連れ雪の降りしきる中を、京から大和(奈良)へと逃げる途中に立ち寄ったと云われ、ここで薬師如来坐像に子供達の子の生長を祈願、老松の下で雪除けをして後、無事に大和国まで逃げおおせたこと云う。(境内には「常盤御前雪除けの松」と呼ばれる残株がある?らしい)

その後、母が捕えられたと聞き再び京に戻り、平清盛に子供の助命を願うのである。結果的に三人の子供は助命されたのだが、この時に平清盛が常盤の色香に迷ったためだとか、男女の深い仲になることにより命が助けられたのだとかの説もあるが、嫡男頼朝の助命が既に決まっており、この三人(今若・乙若・牛若)も助命されたと思われる。彼らは後、異母兄頼朝の拳兵後にその傘下に入つたが、母の願いはかなわず何れも戦死か謀殺されている。美女の哀れか。余談だが、一橋小学校は、私共の隣り学区。また明治時代に宇治炭山から京へ引越した曾祖父が暫く用務員で勤務し、私の母もその学校の卒業生であった。時の流れと

# 市電が走った 京都を巡る

39

福田静二



川線の市電は、南下を続け、しばらくの間、右手には錦林車庫が続く、堀越しに市電の休む姿を車窓から見ることが出来ます。以前にも記しましたが、白川線の停留所の距離は短く、もつ先の停留所の安全地帯が見えてきました。錦林車庫の堀が切れ、吉田山から続く丘陵が迫ってくると、まもなく「真如堂道」の停留所に到着です。

西側に建つ名刹、真如堂から採られた停留所名です。ただ、この停留所から真如堂へ行く場合、丘を乗り越え、白川通を横断する、真如堂は、正式には真正極楽寺の菩提寺として三井各家系代の墓があり、三百年以上にわたって天台宗のお寺です。真如堂の名は、もともとは本堂の呼び名でした。今から、約千年前の永観二年(九八四)、比叡山の戒尊上人が、由縁で、三井グループの菩提寺と比叡山常行堂のご本尊である阿彌陀如来を現在地に移動して安置したのが真如堂の始まりです。しかし、今も残る陸橋があります。その上、応仁の乱で堂塔は焼け落ち、ご本尊は滋賀県大津、京都の足利義輝望め、南側を見ると、やや高台に邸、一条西洞院など転々とした後、位置する南禅寺、都ホテルも見え、現在地に戻り再建されます。秀吉により京極今出川付近に移転しますが、また焼失し、ようやく元禄六年(一六九三)、東山天皇の勅により、再び現在地に再建されました。朝に運転の急行も通過する、

横断陸橋からは、白川通を行く市電。市バスが望めた



女子高校生が乗り降りする、午後の真如堂道停留所

た、寺町今出川下ルには真如堂突抜町、真如堂前町、一条西洞院には元真如堂町、烏丸二条に真如堂町の町名が残る、その変転の歴史を留めています。また、真如堂には、三井グループの菩提寺として三井各家系代の墓があり、三百年以上にわたって祭祀が続けられています。真如堂に参詣した三井家の家祖、三井高利が自らの墓所に希望したことが、由縁で、三井グループの菩提寺と

# 酒屋で生きて 生かされて



## 第九十話 ピンチヒッター

昭29年  
(1954)父が経営

していた酒問屋「酒谷本店」の経営危機は、債権者方々の出資支援で「銀行借入返済」ができて再スタートした。只、その支援条件の中に、私(編集者)が仕事に加わる事と父が当時付き合っていた「女性」と手を切るの二つの条件が付けられた。

当時、家を飛び出し、昭28年に起こった南山城大水害の被災地「井手町」(死者107人)の木津川土手の「小屋」に住み付いて、昼間は、救済支援、夜は被災者の家を訪問し、色々な相談や京都府等からの支援物資が正常に配布されているかなどの調査に歩いた。支援された数と配布された数の差があると、配布を割当した町会議員が、何枚の毛布をこまかした!。と固有名詞を書きビラを町内に配り、その議員の支持者に取り囲まれ脅され怖い思いもした。組織からのお金は僅かしか貰えず、昼間お手伝いした家の方だろ、うが、朝方に入口に置いて下さる米や野菜で飢えをしのごくそれが途絶えると、醤油を薄めた汁に土手下の草を入れピラ貼り用糊を団子にして飲み

む、それも尽きると「奈良電労組」強く、当時は「顔パス」で伊勢田まで「パンフ」を売りに行く。伊勢田ウトロは朝鮮韓国人が多く「トム(同志)飯を食え」と言ってくれ随分助かった。父が、債権者の意向に従って「酒問屋を続けたい」と言つので、「組織」に事情を話し、当時担当していた任務を外してもらい店が軌道に乗るまで「ピンチヒッター」の積りで家業に参加した。(数年後組織を離脱した)

二人と弟ができた。少し変だなあと思っていたが弟達と母親が違うと満16才まで知らなかった。(最近になって弟たちは早くから知っていたと知る)自分は将来、酒谷に不要として「酒屋」も継がないほうが、田満に行くだろうと判断していたが、この非常事態だから仕方なく打席に立った。

「ピンチヒッター」の役割は果たしたが、監督(父)の失敗が続き「下選手」になるしかなかった。野球では「ピンチはチャンス」と言っらしい。これは商売でも、人生でも通用する言葉だと思っ。監督(父)も晩年は名監督になった。

「私には誰もと言つ輝きといつものが一切見えません。」  
「どうして私だけ見えないの?」  
箱を囲む者達に遂に聞いてみました。が、「どうしてこの輝きが見えないの?」と聞き返されます。頭を抱えていると、眠たそうな声が降ってきました。木の上で寝ていた猫です。  
「あんたの中に闇が芽生えたからさ。箱から出てきた者達が、あんたの中に芽をばったからさ。」  
「私の中に、闇など無いわ。」  
「でも今、凄く嫌な顔で僕を見たいでしょ?」  
「そんな顔で見て無いわ。」  
「ほら、素直に受け入れないでしょ?」  
「違っわ。」  
「押し問答になるから、僕はもう寝るよ。」  
猫は耳を塞いで眠ってしまいました。  
さて、パンドーラが猫の言葉を受け入れられる時が来るのでしょうか?猫は言いたいのです。この小さな輝きを見るために、内に巣食った多くの闇を出さなければならぬ、と。

## 箱 (はこ) 月三天

箱にまつわるお話で有名なのは「パンドラの箱」ですね。パンドーラという女性が開けてはならない箱を開けてしまい、多くの闇が飛び出します。箱から全ての最悪が尽出したと思いきや、たった一つ、底の方に美しい輝きが残っていました。最初にその輝きを見付けたのは、パンドーラではなく目の前にそびえる木でした。  
「おや、何か小さいものが光つてるぞ。」  
木は足下に落とされた小さな箱の中を覗きこみます。一体どんな光なのかと思いいつも覗きこみますが、

何も見えません。日差しの加減で箱の中が光つたに違いないので、私は木の言つ事を無視して最悪をどのように回収しようか考える事にしました。  
「まあ、奇麗な光ね。」  
通りすがりの鳥も木と同じことを言います。気になってもう一度確かめますがやはり何も見えません。  
「ほんとだ、ピカピカしてる。」  
「キラキラよ!」  
リスやウサギも見付けますが、箱の中をどう探しても見当たりません。  
「ああ、何て美しいんだらうか、先程運んだ闇とは打って変わって、強く確かな輝きた。」  
そよ風が、心をなで下るすように箱の中を見詰めます。しか

し私には誰もと言つ輝きといつものが一切見えません。」  
「どうして私だけ見えないの?」  
箱を囲む者達に遂に聞いてみました。が、「どうしてこの輝きが見えないの?」と聞き返されます。頭を抱えていると、眠たそうな声が降ってきました。木の上で寝ていた猫です。  
「あんたの中に闇が芽生えたからさ。箱から出てきた者達が、あんたの中に芽をばったからさ。」  
「私の中に、闇など無いわ。」  
「でも今、凄く嫌な顔で僕を見たいでしょ?」  
「そんな顔で見て無いわ。」  
「ほら、素直に受け入れないでしょ?」  
「違っわ。」  
「押し問答になるから、僕はもう寝るよ。」  
猫は耳を塞いで眠ってしまいました。  
さて、パンドーラが猫の言葉を受け入れられる時が来るのでしょうか?猫は言いたいのです。この小さな輝きを見るために、内に巣食った多くの闇を出さなければならぬ、と。

今号に初めて「青年時代」の事を記しました。僅か五年程の間のことですが、その間に得た経験や感激は、も残っているようです。  
その時代の地獄まで持っていかなければならぬ事は書きませんが、追々と書こうと思つています。今に繋がる貴重な経験もしましたから。  
その火が少し残っていて、馬町空襲の碑に結びついたようです。  
随分昔のことなのに、多くの方の「協力」がありました。  
元々が菜食民族で、残虐なところは、難しいのでしょうか。肉食の増加と共に「非道な」たらし「事件」が増えたように思います。  
聖徳太子も和を以て尊し私

ジール・ジモラ・ルフェーブル(1882)



箱の中を覗きこみます。一体どんな光なのかと思いいつも覗きこみますが、

「ああ、何て美しいんだらうか、先程運んだ闇とは打って変わって、強く確かな輝きた。」

「ああ、何て美しいんだらうか、先程運んだ闇とは打って変わって、強く確かな輝きた。」